

第60回近畿実業団バスケットボール選手権大会

男子決勝 戦評

月日:2015年10月4日(日)

時間:16:40

会場:大阪府中央体育館 サブアリーナ

黒田電気 (大阪) 59	[15 - 17] 58	タツタ電線 (大阪)
		11 - 15		
		12 - 15		
		21 - 11		
		-		
主審: 黒岡和哲 (大阪)				
副審: 高野晃平 (大阪)				

【スタート】 黒田電気:⑨⑩⑫⑬⑭⑮ タツタ電線:⑤⑬⑭⑮⑯⑰
1Q お互いにマンツーマンディフェンスでスタート。黒田⑫の2Pで試合が動き出す。タツタは⑰の2Pなどで応戦するも、クロダは⑫を中心にゲームを組み立てて、先手を打ちながら試合を進める。しかし、黒田⑨のファールトラブルもあり、タツタは徐々に点差を縮め、残り30秒で⑮の3Pにより、15-17と逆転し、1Qを終了する。
2Q 1Q終盤の流れをつかんだタツタが攻勢になり、1Qとは逆にタツタが先手を取りながら試合を進め、15-23のタツタの8点リードになったところで黒田がタイムアウトを取る。⑨⑩を投入し、流れを掴み直そうとする。黒田はディフェンス、オフェンス共にリバウンドを頑張り、リズムを掴もうとするがなかなか得点に結びつかず、時間が経過する。その後、黒田は速攻からの逆襲を図るも、要所でタツタに得点を決められ差が詰まらず、26-32でタツタが6点リードで前半を折り返す。
3Q お互いにディフェンスを頑張る展開で一進一退の攻防が続く、残り6分を切っても、タツタは30-36と6点リードを保つ。その後、黒田も3点差まで詰め寄るもタツタも踏ん張り、残り1分46秒に⑤の2Pで点差を7点に広げ、その後も連続攻撃で加点し、38-47とタツタのリードは9点となる。黒田はタイムアウトをとり、局面の打開を試みるも、残り時間をタツタはゲームコントロールし、38-47のまま4Qへ突入する。
4Q 開始後2分たっても両チーム無得点が続くが、ここでタツタが先に⑨の個人技で得点を重ね、試合を有利に展開する。黒田も必死に食い下がるがファールが混み、先にチームファール4個になり、苦しい展開が続く。両チーム共に得点が伸びず、残り4分40秒で42-50のタツタ8点リードで黒田がタイムアウトを要求。この苦しい時にタツタは⑫の2Pで加点し、黒田は⑱の3Pなどで反撃する。残り1分10秒で黒田⑱の3Pが再び決まり、52-55の3点差に縮まったところで、今度はタツタがタイムアウトを要求。タツタは次の攻撃で⑮の3Pで突き放すも、黒田は連続2Pの後、残り6.3秒で⑱の3Pが決まり、59-58と一気に逆転に成功。黒田は残り6.3秒のタツタの猛攻をしのぎ、2年振り10回目の優勝を劇的な幕切れで飾った。

第60回近畿実業団バスケットボール選手権大会

女子決勝 戦評

月日:2015年10月4(日)

時間:15:00

会場:大阪府中央体育館 サブアリーナ

滋賀銀行 (滋賀) 64	18 - 17	62	紀陽銀行 (和歌山)
	13 - 8		
	20 - 25		
	13 - 12		
	-		
主審: 茅野修司 (大阪)			
副審: 清瀬未喜 (大阪)			

【スタート】 滋賀銀行:⑥⑦⑧⑩⑬	紀陽銀行:①④⑭⑮⑯
1Q 互いにマンツーマンディフェンスでスタート。なかなか得点に結びかない攻防が続くも、紀陽が先手を取る展開になり、残り4分を過ぎると4-11と紀陽が7点とリードを広げたところで、滋賀はタイムアウト。ここで悪い流れを断ち切るようにディフェンスを頑張り、一気に11-12と逆転。ここからは一進一退の攻防が続き、18-17で滋賀の1点リードで1Qを終了する。	
2Q 滋賀が先手を打っていくが、いいリズムが続かず、なかなか点差が広がらない。両チーム共に選手交代により、局面の打開を図ろうとする。残り4分を切ったところで滋賀はタイトなディフェンスからのパスカットで31-23と8点差をつけ、たまたま紀陽はタイムアウト。ここから両チームともに果敢にバスケットにアタックするも得点に結びつかず、互いに苦しい時間帯が続く。2Qは33-25の滋賀8点リードで折り返す。	
3Q 紀陽④の連続2Pで試合が動きだす。紀陽は厳しいディフェンスと④を中心にした攻撃で追撃し、残り5分で44-41の3点差まで詰め寄る。ここで滋賀も④の3Pで踏ん張るが、チームファウルが4回を超え、苦しい展開が続く。残り3分24秒、47-42の5点リードの場面で滋賀がタイムアウトを取る。紀陽は、この後もオールコートディフェンスから逆転を図るも滋賀も必死に対抗する。残り1分で紀陽⑭の3Pで49-50と逆転に成功したが、滋賀も入れ返し、51-50の滋賀1点リードで4Qを迎える。	
4Q 滋賀⑮の2Pでスタートするも、お互いにリズムを掴めず、得点が伸びない。4Q無得点が続く紀陽は残り8分2秒でタイムアウトを要求し、立て直しを図る。しかし、滋賀が徐々に主導権を握り点差を広げる。紀陽は残り5分でやっと4Qの初得点が入り、そこから反撃が開始し、必死に食い下がる。紀陽は残り2分を切ったところで59-60と逆転に成功するも、ここで滋賀も踏ん張り、⑧のバスカン3Pプレイで再逆転する。残り1分を切ったからも厳しい攻防が続くが、64-62の2点差で滋賀銀行が逃げ切り、3年連続12度目の優勝を飾った。	